



つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部
2020年 12月号

♪難聴児と音楽について～授業の工夫と評価～♪

新型コロナウイルス感染症がニュースを駆け巡ってから1年近くたとうとしています、いまだ収束の目処が立たないまま、新年をむかえようとしています。各学校の先生方におかれましては、大変な状況の中、聴覚障害児童生徒への支援等を工夫しながらお過ごしでいらっしゃると思います。今回はよく質問をいただく音楽についてまとめてみました。

〈難聴児に音楽はどのように聞こえているか〉

子どもたちは一人ひとり聞こえ方が違います。聴力レベルが似ていても、補聴器や人工内耳の装用時期、その調整などによって音の捉え方に個人差が出てきます。音程はとれなくても曲調はわかる、見て聞いたことがある楽器なら音を聞いて当てられる、リズムに合わせて手をたたくことができる、みんなの声に合わせて歌える、子どもの聞こえ方を把握しながら音楽の支援を考えていきます。



時々「どうやったら正しい音程で歌えるようになりますか？」という質問をいただきます。実は難聴児にとって、正しい音程で歌うのは容易ではありません。発音は明瞭なほうなのにどうして？筆者もどうしてかな…とスッキリする理由を答えられないまま過ごしてきました。ある日、様々な会社の補聴器を聞き比べして気付いたのですが、補聴器のメーカーによって、同じ人の声の高さが違って聞こえるのです。驚いて確認すると、調整によってそうなることは十分にあり得るとのことでした。

ということは、例えば今まで「ソ」と覚えていた音が、補聴器を買い換えたり調整を変えたりすると、違う高さが変わって聞こえる可能性を示唆しています。これでは正しい音程はとりにくい…と思いました。そうでなくても、もともと感音性難聴は蝸牛や聴神経を含む内耳の障害に起因するため、**「正しく音をとらえる力が弱い」**のです。なので、**正しい音程で歌うことを目指すよりも、音楽を楽しむこと、音楽の良さがわかること**を大切にしながら取り組んでいただけたら、子どもにとって音楽が親しみのあるものになっていくのではないかと思います。

〈成人難聴者たちと音楽〉



身近にいる成人難聴者たちを見ていると、カラオケ好きな人、習い事のダンスを今も続けている人、補聴器とiPhoneを接続（Buletoosh）して、音楽を聞きながら勉強する人、バンド活動をしている人など、日常生活の中で音楽と関わって生きている人はたくさんいらっしゃいます。

個人的な意見ですが、**聴力レベルの重軽はあまり関係がない**ようです。重度難聴の方でも歌を熱唱されているのをお見かけしていますし、その一方で軽度難聴でもあまり音楽に興味がない方もいらっしゃいます。

地域の学校を卒業した難聴の方に、学校での音楽の支援で嬉しかったことを尋ねると、次のような内容が挙げられました。



- 合奏では、**同じ楽器の友達とペア**にしてもらい、リズムを合わせられるように工夫してもらった。（木琴は対面、鍵盤ハーモニカは下の段に座っている友達の手元が見える等）
- 先生が「**出だし**」と「**終わり**」などの**合図**を決めて、伝えてくれてわかりやすかった。
- わからなくなったとき、**楽譜を指でおさえ**演奏しているところを教えてくれて助かった。
- 歌は上手くなかったが、歌唱テストのとき、友達は笑わないでちゃんと聞いてくれた。
- リズムがつかみにくいときは、**肩をぽんぽん**と叩いて教えてくれた。
- 歌詞や楽譜が黒板に貼ってあり、先生が指さすのを見ながら歌いやすかった。
- 苦手な特定の音色のときは、**音源から離れた位置**にしたり、**補聴器のボリューム**に気がつかたりしてくれた。

→裏面へ続きます。

先述した内容はあくまでも一例であり、全ての児童生徒に当てはまるとは限らないのですが、やはり板書等の視覚的支援があるとわかりやすく、手拍子など身体を使いながらリズムを覚える方法が印象に残っているようです。

〈音楽の授業での支援例〉

本校で取り組んでいる教材や方法等の一部を紹介させていただきます。

(もし各学校で取り組まれている支援方法がありましたらぜひ教えてください。またこの紙面上でも情報交換できれば嬉しく思います。)



ONTEENNA

(オンテナ)

髪の毛や耳たぶ、えり元やそで口などに付け、振動と光によって音の特徴を、からだで感じる全く新しいユーザインターフェースです。60~90dBの音を256段階の振動と光の強さに変換し、音の特徴を伝達します。

「しろくまのジェンカ」

歌詞カード

かーさんの しろくまさんは
 のそのそ どたばたばたん
 あかちゃんの しろくまさんは

文字の大きさを変えることで、音の長さやリズムの特徴がわかるように提示しています。



映像や絵本等

曲のイメージが持ちやすいように、曲を聞く前に映像や絵本などを見て、これから耳にする音楽のイメージを想像しながら、聞くようにします。もちろんその逆もあります。

掲示物

音楽を感じる心
 ~気持ち言葉を表現しよう~

力強い 堂々とした 幸せな
 はしゃいだ にぎやかな すがすがしい
 元気な 楽しい 明るい
 おだやかな のどかな 美しい

本校の音楽室では、曲のイメージを表す言葉や、音の強弱に関する記号などを掲示しています。楽譜を見て曲の雰囲気をつかむために、記号の意味を1つ1つ丁寧に勉強しています。

〈評価について〉

本校では歌唱(正しい音程)に関しての評価は行っておらず、そのかわり以下の観点などから評価をしています。

- リズムをつかんで表せているか(技能)
- 曲のイメージを豊かに表現できているか(技能)
 - 楽器演奏はある程度評価する。
 - 基本的に手話で歌っており、その表現力も評価対象になる。
- 視覚情報も参考にして、音楽の雰囲気や情景を感じ取っているか(鑑賞)



聞こえる子どもと同じ観点からの評価ではなく、また聴覚障害があるから低くなるものでもなく、本人の意欲や頑張りが正当に評価されること、わかりやすく本人が納得できる評価の観点、努力するために目標に出来るような(到達可能な)観点を示せることが大切になってくるのではないかと思います。

(文責 椿野)

「聞こえにくい子に合った支援方法を知りたい」「子どもの聞こえの状況を把握したい」「子どもは、どんな時に困難さを感じている？」など、お聞きになりたいことや相談したいことがありましたら、いつでもご連絡ください。一緒に子どもたちへの支援を考えていきましょう。

奈良県立ろう学校 吉田(小学生以下)・田中(小学生以上)

TEL 0743-56-2921 FAX 0743-56-8833